

A0802-04	設備内に重合物がある場合の開放には注意		
本文	槽や配管に溜まる重合物については、その性状を調査し、発火などの万一のときの対応策を事前に検討、準備してから開放すること。また、開放したまま放置しないこと		
リスクの種類	未反応モノマー燃焼	関連目次・章節	A0302、A0401
理由(何故)	通常空気に触れていない槽や配管内部に溜まる重合物には、内部を開放して空気に触れると自然発火し、火災になることがある。		
方策	<ul style="list-style-type: none"> ・パージ・水洗を徹底し、可燃性のモノマー・オリゴマーなどを除去してから解放する。洗浄設備も用意しておく必要がある。 ・付着している重合物などは含浸しているモノマーを除去しにくいので、開放の際は窒素送入などにより着火を防止し、開放後速やかに重合物を除去する。 ・設備はデッド部分の無い設備構造にする。 		
事故例	ポリブタジエン重合槽の開放の際、残留ポリマーの除去作業が2日の作業になったため、槽を開放したまま翌日に作業の継続をとしていたところ、自然発火により夜間に槽内が火災になった。(死者0、負傷者0) (1997.7 化学工場 千葉県)		
法的参考事項			
備考	事例: JST 失敗知識 DB		